

自然に寄り添う温泉旅館の整備

1170152 三谷 尚央
高知工科大学 システム工学群
建築・都市デザイン専攻
指導教員 重山 陽一郎

1 背景

三宝山とは香南市の北に位置する標高約260mの山である。
香南市では三宝山山頂周辺の整備計画を進めている。その計画は子どもをターゲットとしたアスレチック施設の整備や、現在残っている廃墟のシンボル化が行われる予定である。私はこのような計画では長期的な集客が見込めないと考えた。そこで同じ土地により魅力的な計画を提案する事とした。



図1 日本の建築と縁もゆかりもない西洋風な廃墟

2 目的

三宝山の景観に配慮した計画を行い、癒しを求める観光客をターゲットとした長期的な集客力のある施設を提案する。

3 現状の把握

対象敷地は以前営業していた三宝山スカイパークの跡地である。
現在は利用されていない。

3-1 短所

不自然な外観の建物が山の景観に悪影響をあたえている。
頂上付近は造成され不自然な地形になっている。

3-2 長所

香長平野を見渡す事のできる眺望がある。
高知龍馬空港から20分程度の位置にある。
周辺に民家が少なく夜は星を楽しむ事が可能である。
地形の特徴から開放感とプライバシーの両立が容易に可能である。



図2 露天風呂は視界を遮る物を最低限に抑え、開放的な空間を提案した。扁平型の湯船は10人の利用者が同時に景色を楽しむ事ができる。

4 計画方針

三宝山の景観に配慮した、長期的な集客力のある提案を実現するために以下の4点をもとに計画を行う。

- (1) 景観重視の香南市のシンボルを提案する。
- (2) 利用者を癒す空間を提案する。
- (3) 絶えない賑わいのある施設を提案する。
- (4) 四季の変化を楽しめる計画をする。

(1)景観重視の香南市のシンボルを提案する
シンボルとは長期間形を変えず認識できる物がふさわしい。そこで、昔から信仰の対象となる事のあった地形そのものである三宝山全体をシンボルとする。
計画では山と一体感のあるデザインの設備を提案する。
… 図9

(2)利用者を癒す空間を提案する。

この施設では、非日常的な贅沢な癒しを得る事ができる。
香長平野は四国山脈と太平洋が迫る地形が特徴的である。利用者はその地形を一步引いた高い場所から見る事で、人間が自然の中で生きている事を実感する。自分の存在を理解する事で日常では感じる事のできない大きな気持ちを持つことができる。 … 図2
多くの利用者が癒しを得る時間は食事、睡眠、入浴の時間である。その際にコントロールされた視界から得られる景色を付加する事で更なる癒しを得る事ができる。
… 図3、4

(3)絶えない賑わいのある施設を提案する。

施設の利用者がお互いに挨拶を交わすような空間を提案すると賑わいを感じる事ができる。例えば、施設間に距離を作り、移動の際は廊下を必ず利用する仕組みをつくる。利用者に限られた動線での移動を促すことで、利用者同士のすれ違いが増える。また、施設ごとに適切な面積を検討し、賑わいを演出する事ができる。 … 図5
(4)四季の変化を楽しめる計画をする。
山の四季の変化と一体となり、敷地の庭も変化する。利用者を飽きさせない、四季の表情を感じる事ができる。一年を通して変化するイロハモミジや、ドウダンツツジは心を豊かにしてくれる。 … 図6



図3 ロビーと宿泊施設をつなぐ廊下。建物に囲まれた中庭を楽しむ事ができる。宿泊施設の廊下は湾曲しているため見通しが効かない。利用者の先への好奇心をそそる。



図5 限られた動線に利用者を集めた。そのため廊下では利用者同士がすれ違い賑わいをもたらす。温泉、レストランは1日の日帰り利用者をそれぞれ120人、100人として適切な面積を算出した。

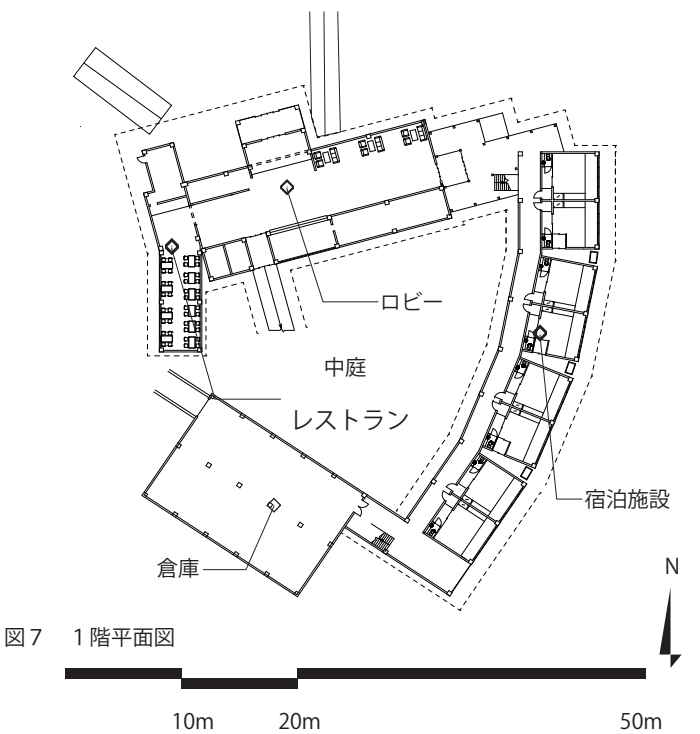


図7 1階平面図



図4 12畳の4ー6人部屋からの眺め。利用者はロビーでのチェックインを終え、初めて開いた景色を楽しむ事ができる。宿泊者のみが楽しむ事のできる贅沢な視点場である。



図6 廊下での移動が必須な計画であるため、中庭は植栽や高低差を利用し、見る方向によって奥行き異なる飽きない庭を意図した。季節による変化が豊かな楓の木を中庭の隅に配置し、山全体との自然なつながりを計画した。

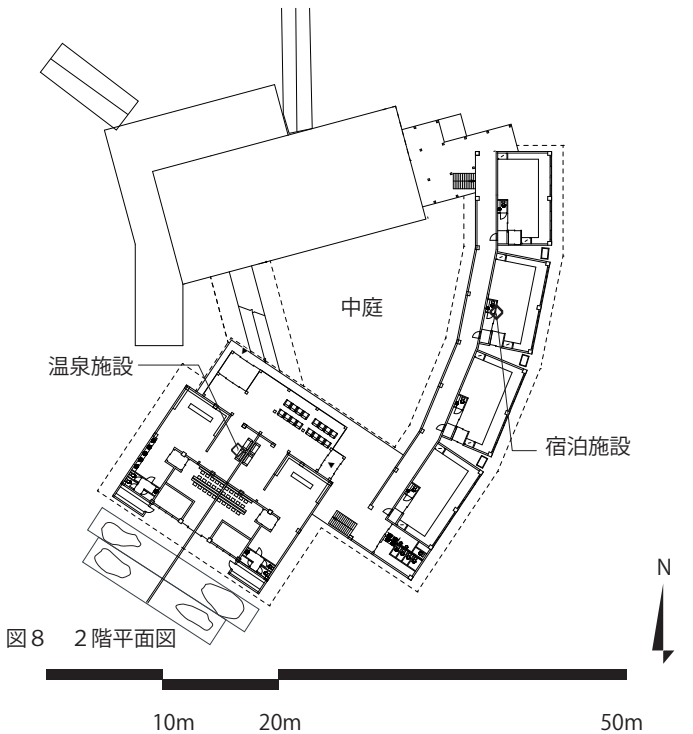


図8 2階平面図



図9 山自体をシンボルとし、山の形に添った屋根勾配を使う事で山を尊重する。

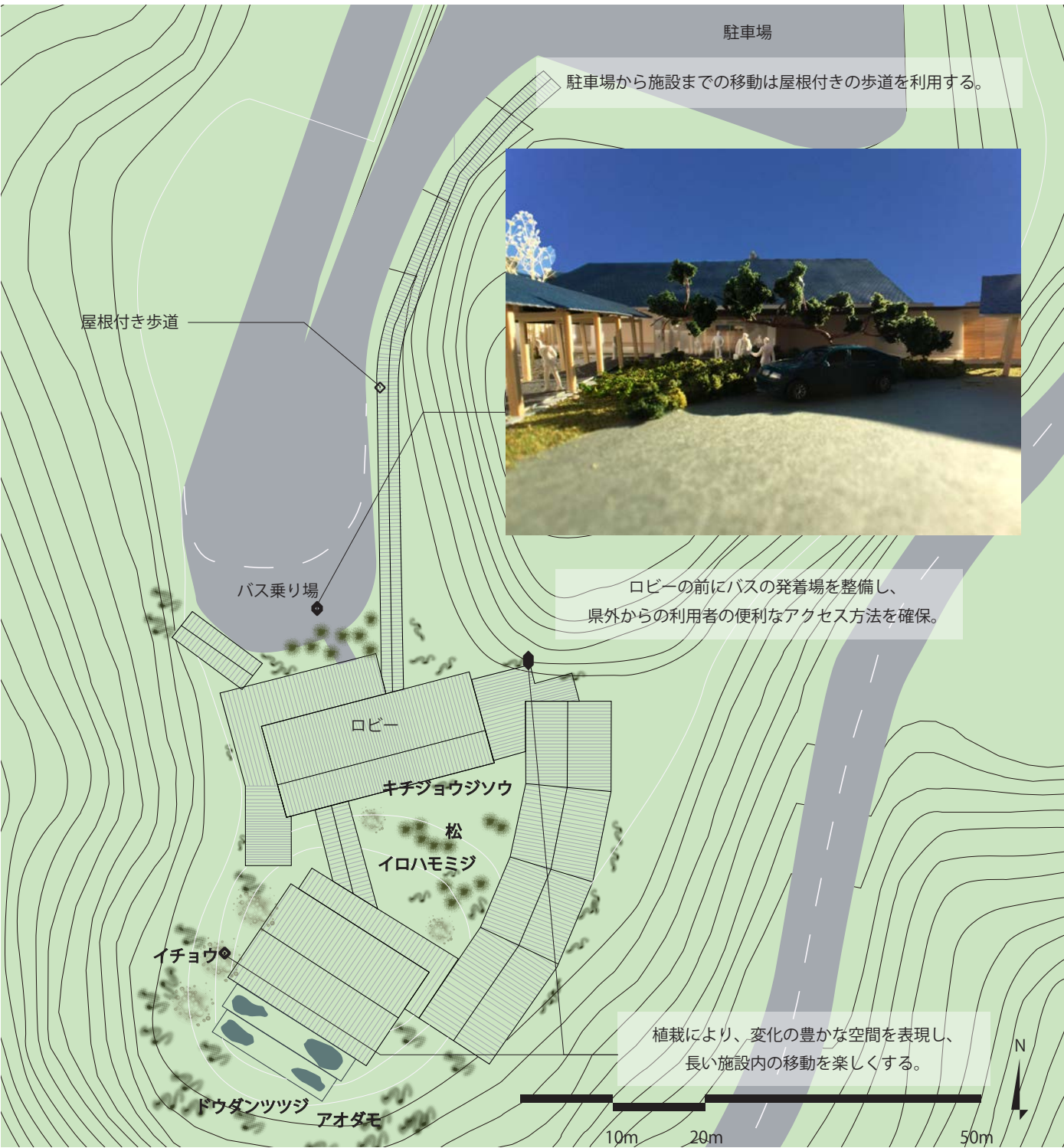


図10 配置図